

平成 24 年 5 月 17 日

嬉野市議会議員 太田重喜 様

総務企画常任委員長 大島恒典

## 総務企画常任委員会報告書

平成 24 年 3 月議会において付託された下記事件の調査結果を、嬉野市議会会議規則第 100 条の規定により報告する。

### 付託事件名 地域コミュニティについて

総務企画常任委員会では、平成 24 年 4 月 18 日に市内各地区の地域コミュニティ会長、事務局長と今までの活動経緯や今後の活動などについて意見交換をおこない、付託事件の調査を行った。

#### 調査の理由

市内、各小学校区を基準としてのコミュニティ運営協議会が、21 年度の 7 月から順次立ち上がり 23 年度にはすべての地区において運営協議会が活動を始められた。

委員会としても、設立までの経緯や現状の把握、また問題点などを認識しておく必要があるため各地区の代表者との意見交換をおこなった。

#### 調査結果

各地区毎の調査結果は次のとおりである。

#### 久間地区

- ・平成 21 年度から活動を開始している。地域コミュニティの周知を 5 年ぐらいをめどにと考えている。安全・安心の久間地区を目指して、現在青色パトロールで回っている。今後は、この時に童謡などを流して、地域コミュニティの活動を知っていただきたい。地域の防災について今後各地区で話し合っていく。ポチポチ推進していきたい。
- ・公民館活動の二番煎じだということでは必要ないなどと地区によって温度差があり、地区行事を避けての全体的な仕事しかできない、コミュニティの重要性を理解してもらう必要がある。

- ・コミュニティの必要性をもう少し市としても発信をしていただきたい。

#### 大草野地区

- ・10年先を見据えて考えるべきだが、本当に継続していけるか後継者などのことを考えると不安である。(若い人たちにきずなの大切さを理解してもらうことが難しい)
- ・活動費がなければいろいろな事業がしづらい。

#### 吉田地区

- ・3年経過したが、役員はコミュニティに対して理解しているが、住民にいかに浸透させていくかが大切だと思う。また部会が一年で交代されるので仕事がやりにくい。
- ・今後乗り合いバスについて取り組んでいきたい。
- ・市の職員がもっとコミュニティに参加していただき、また引っ張っていただきたい。

#### 五町田地区

- ・一年目は計画に追われた、二年目から実際に行動に移していく時が大事。
- ・運動会で伝統芸能を入れ込んだらという話が出てきて、当日に紹介してもらった地域により違いがあるということが分かり、非常によかった

#### 塩田地区

- ・今やっと計画書を配布したところです。これからコミュニティとは何ぞやということ伝えていかなければと思っている。
- ・地区でのアンケートが取られている。今後の活動の指針になると考えている。
- ・行政としてのコミュニティの位置付けを聞きたいのが本音です。
- ・位置付けと言いましたが、職員サポーター制があるが職員の温度差も感じる。職員さんも一生懸命やっていただきたいと思う。

#### 轟・大野原

- ・設立に携わりいろいろな人とふれあうことができ良かった。
- ・市からの指導がもう少しあってもよいと思う。(方向性とか)
- ・区によってコミュニティの必要性に違いがある、大きい地区でなくてもよいのではないかという意見もあった

#### 嬉野地区

- ・大きすぎるので、役員などの立ち上げまでに時間がかかった。
- ・事務局の整備をして欲しい。

## 委員会の意見

今回、市内すべての校区で地域コミュニティの運営協議会が地域計画を策定し活動を始められた。

先行しておられる地区と立ちあげられて間もない地区との、抱えておられる課題や問題は地域性や活動期間の違いによりさまざまであったが、共通した課題として、どのように住民の方に地域コミュニティの大切さを、理解してもらい伝えていくのか。また次に繋げていくための後継者問題などを上げられていた。事業として取り組みやすく連帯感の効果が出る校区の運動会に対して意見が多かった。

一方、これからの地域コミュニティに対しての市や職員また議員のかかわり方についてもいろいろなご指摘を受けた。

東北の大震災以降、地域のきずなの大事さ、また急速に進展しつつある少子高齢化や近所付き合いの希薄化などによってひき起こる悲惨な事故や事件等の問題を見ても、今後の嬉野において危惧される場所である。そのような中、協議会の設立や地域計画の作成までかかわってこられた役員の方々は、コミュニティの大切さを理解し地域において頑張っておられる。

市としても、市民に対するコミュニティの啓蒙、啓発をおこない、人的支援、資金の支援など、地域コミュニティが軌道に乗るまでは、もっと積極的にサポートしていくべきものとする。